

Theme: 微分積分とは？

みなさん、”微分積分”って聞いたことがありますか？「難しそう」という感想を持つ人がほとんどだと思いますが、実はすごくシンプルで便利なツールなんですよ。

まずは、復習から。”変化の割合”という言葉はきいたことあると思います。変化の割合 = $\frac{y \text{ の増加量}}{x \text{ の増加量}}$ とかいうやつです。具体例を用いながら思い出していきましょう。

*

*

*

$y = x^2$ というグラフを考えてみましょう。 $x = 1$ から $x = 2$ に変化したときの変化の割合は、次のような式から求められます。

$$\frac{y \text{ の増加量}}{x \text{ の増加量}} = \frac{f(2) - f(1)}{2 - 1} = \frac{2^2 - 1^2}{2 - 1} = 3$$

さて、ここからは文字にしていきます。文字にしたとたんにわからぬ人が急増するのでお気をつけを。

$$\frac{y \text{ の増加量}}{x \text{ の増加量}} = \frac{f(x+h) - f(x)}{(x+h) - x} = \frac{f(x+h) - f(x)}{h}$$

具体例では「 $1 \rightarrow 2$ 」という変化でしたが、これを「 $x \rightarrow x + h$ 」という変化にしてみました。グラフからよく確認しておいてください。このタイミングで微分係数を求める公式（定義）を紹介することにします。

微分係数の求め方（定義）

関数 $f(x)$ の微分係数 $f'(x)$ は以下のように定義される。

$$f'(x) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(x+h) - f(x)}{h}$$

さっき作った式にすごく似ていることがわかりますね？

さっきの図をでは、幅を h としていたので、「その幅をごくごく小さくすれば、瞬間の変化率がわかるんじやね？」という発想になります。実際にさっきの例で計算してみましょうか。

$$\begin{aligned} f'(x) &= \lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(x+h) - f(x)}{h} \\ &= \lim_{h \rightarrow 0} \frac{(x+h)^2 - x^2}{h} \\ &= \lim_{h \rightarrow 0} \frac{x^2 + 2xh + h^2 - x^2}{h} \\ &= \lim_{h \rightarrow 0} \frac{2xh + h^2}{h} \\ &= \lim_{h \rightarrow 0} (2x + h) \\ &= 2x \end{aligned}$$

よって、 $f'(x) = 2x$ となります。実際に、「 $f(x) = x^2$ の導関数を求める」と言わされたら、これが答えになります。「 $x = 2$ における $f(x) = x^2$ の微分係数」とか言わされたら、 $x = 2$ を代入して、 $f'(2) = 4$ が答えになります。少しだけ単語が複雑ですが、問題を解くときにはあまり困らないので、あまり気にしないでおくことにしましょう。

これがとても便利なんですよ。今回はこれで終わりですが、この分野は物理や数学以外にも、経済学や社会学でもよく使われるんですよ。では、少しだけ教科書の問題を解いて終わることとしましょう。

練習 4, 5 (教科書 P.195,199)

練習 4 関数 $f(x) = x^3 + 2$ の $x = 1$ における微分係数 $f'(1)$ を求めよ。

練習 5 導関数の定義に従って、次の関数の導関数を求めよ。

(1) $f(x) = 3x^2$

(2) $f(x) = -x^2$